

テーマ 市村清とわたし

『茨と虹と 市村清の生涯』 を読んで

(株)リコー

竹本美樹子

職場の外門を入って行くと、小さな芝生の中庭に石碑があります。25年前にリコーに入社し、配属された今の職場に初めて出勤した日に最初に目にしたのが「人を愛し国を愛し勤めを愛す」と刻まれているこの石碑の文字だったのを覚えています。そしてそれを見た時、良い会社に入れてもらえたなど率直に感じたのを昨日のように思い出します。リコー創業者の市村氏は僅か15歳で独立の社会人として踏み出し、銀行員、保険外交員と類い稀な好奇心とチャレンジ精神で次々とビジネスの手腕を磨いていきます。理研の感光紙を売る代理店を開業し、一地方代理店主にすぎなかった男がわずか4年、33歳にして日本国内だけでなく朝鮮満州にまで売り上げを伸ばし、その後理化学研究所から独立し、リコーの前身となる会社を立ち上げて行きます。

時に人情にほだされ我欲を忘れて取った行動で他者に救いの手を差し伸べるも、不思議といつも後に大きなプラスとなって帰ってきたというエピソードが幾つか紹介されていますが、ビジネスが窮地に陥った時、市村氏の人徳が何度となく事態を救っているのです。自らの意思で運命を切り開き自己を拡張し、数々の障害と対決し、そして他者への感謝と温情を忘れない、この繰り返りでビジネスを成功させてきたと思います。

市村氏の座右の銘「人の行く裏に道あり花の山」これは相場の世界では最も有名な格言と言われますが、市村氏の生涯とその人格を知り、自分なりにこう解釈しました。人が大勢いる表の道ではなく裏道にこそ本当に美しい花が咲いている。だから人のやらないことをやりなさい、恐れずチャレンジしなさい。事業が厳しい状況の時こそ創業者の起業家精神や崇高な理念に立ち返ってみることが今私達には必要だと思いました。

竹本さんからの受賞後のコメント

市村清さんのロマンあふれるその人となりに率直に感動したため、僭越ながら感想文を書かせていただきました。

ビジネスに対してのみならず、力強く生きる勇気をいただけるすばらしい著書です。ありがとうございました。